

「女殺油地獄」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七二二	享保6	7/15～	竹本座	女殺油地獄	※初演年月日は『外題年鑑 宝暦版』に拠る。興行外題に 関しては次の正本に拠る。竹本筑後掾(奥書)、山本版七 行本。作者近松門左衛門(内題下)、『義太夫年表 近世 篇』。	(不明)
一九五二	昭和27	11/2	ラジオ放送	女殺油地獄	豊島屋油店の段(綱Ⅱ弥七)。 ※竹本綱太夫「十一月二日にはNHKの放送芸能祭番組の 一つとして、弥七君と新たに作曲して「女殺油地獄」を放 送しました」(『文楽一夕話 近松記念の「紙治」』幕間 昭和27年12月号)。 ※『音のライブラリー保存目録(1960年3月末現在)』 (日本放送協会放送文化研究所)「芸能作品―義太夫節」の 項に「女殺油地獄(下の巻) 8 綱大夫10 弥七、52、11、2 放」とある。	

「女殺油地獄」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六二	昭和37	4/18~23	道頓堀文楽座 (因念)	女殺油地獄 通し狂言	<p>上の巻 徳庵堤茶店の段(女房お吉+天王寺屋小菊+南部 ・河内屋与兵衛+織の・山本森右衛門+豊島屋七左衛門+ 大隅・刷毛の弥五郎+伊達路・会津の大辰郎九+小栗八弥 +十九・天王寺屋花車+相子・下女+中娘お清+松香・徒 士の衆+茶店の亭主+津弥+吉三郎)、中の巻 河内屋与兵 衛内の段(中伊達路+団六、切相生+重造)、下の巻 豊 島屋油店の段(女房お吉+豊島屋七左衛門+春子・河内屋 与兵衛+織の・口入綿屋小兵衛+大隅・父親徳兵衛+徳兵 衛女房お沢+津+弥七)。 ※鷲谷樗風+演出、大塚克三+装置。西亭(野沢松之輔) +補綴作曲(徳庵堤茶店の段)、「河内屋与兵衛内の段」。 八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七+作曲(豊島屋油店の 段)。 ※「下 綱弥七作曲 網休みで掛合に」(『文楽興行記録昭 和篇』欄外記事)。</p>	<p>女房お吉(玉男)、河内屋与兵衛(栄 三)、山本森右衛門(兵次)、豊島屋七左 衛門(東太郎)、父親徳兵衛(玉助)、徳 兵衛女房お沢(玉市)、妹娘おかち(文 雀)。</p>

「女殺油地獄」(上演年表)

一九六六	昭和41	2/16~25	朝 日 座	女殺油地獄 通し狂言	<p>上の巻 徳庵堤茶店の段(女房お吉+天王寺屋小菊+南部・会津の大臣郎九+小栗八弥+織の・山本森右衛門+豊島屋七左衛門+大隅・刷毛の弥五郎+伊達路・河内屋与兵衛+十九・天王寺屋花車+相子・下女+中娘お清+松香・徒士の衆+茶店の亭主+津弥+吉三郎)、中の巻 河内屋与兵衛内の段(中 伊達路+団六、切相生+重造)、下の巻 豊島屋油店の段(女房お吉+豊島屋七左衛門+春子・河内屋与兵衛+口入綿屋小兵衛+織の・父親徳兵衛+徳兵衛女房お沢+津+弥七)。</p> <p>※鷲谷樗風+演出、西亭(野沢松之輔) + 補綴・野沢松之輔+作曲(徳庵堤茶店の段)、「河内屋与兵衛内の段」。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七+作曲(「豊島屋油店の段」)。</p> <p>※因会「初の自主公演」(筋書)。</p> <p>※三宅周太郎「これは綱、弥七が苦心して研究、節^{マツゼ}づけをしたもので、数年前、京都の引退している山城の少掾の本で、二人が完成した「油店」の殺しを、試演した時に、偶然私は山城を訪問して聞いて聞いたのです。山城もよくできたといっていました、これを弥七が指導して津大夫中心に語ります」(筋書)。</p>
一九六二	昭和37	6/1~7	東京 東横ホール (因会)	女殺油地獄 通し狂言	<p>女房お吉(玉男)、河内屋与兵衛(栄三)、山本森右衛門(玉市)、豊島屋七左衛門(東太郎)、父親徳兵衛(玉助)、女房お沢(玉市)、妹娘おかち(文雀)。</p>
一九六六	昭和41	2/16~25	朝 日 座	女殺油地獄 通し狂言	<p>女房お吉(玉男)、河内屋与兵衛(栄三)、山本森右衛門(辰五郎)、豊島屋七左衛門(賛助)、父親徳兵衛(勘十郎)、徳兵衛女房お沢(玉五郎)、妹娘おかち(暢)。</p>

「女殺油地獄」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六六	昭和41	9/20	神戸 神戸海員会館	(女殺油地獄)	豊島屋油店。 ※神戸労音公演。 ※『文楽 協会設立二十五周年を記念して—文楽協会—』に 抛る。	
一九七〇	昭和45	8/22~9/1	朝日座	女殺油地獄	徳庵堤茶店の段(咲道八)、河内屋与兵衛内の段(嶋清治、十九勝太郎、豊島屋油店の段(文字弥七)。 ※鷺谷樗風演出、大塚克三装置。野沢松之輔作曲(徳庵堤茶店の段)「河内屋与兵衛内の段」。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七作曲(豊島屋油店の段)。 ※竹沢弥七休演のため、鶴沢燕三が代演(昭和50年7月朝日座公演筋書、『邦楽と舞踊』昭和57年2月号所載の竹本文字大夫芸談に抛る)。	女房お吉(玉男)、河内屋与兵衛(栄三)、山本森右衛門(辰五郎)、豊島屋七左衛門(賛助)、父親徳兵衛(勘十郎)、徳兵衛女房お沢(玉五郎)、妹娘おかち(二暢)。
一九七〇	昭和45	11/28~29	名古屋 中日劇場	女殺油地獄	徳庵堤茶店の段(咲道八、河内屋与兵衛内の段(嶋清治、十九勝太郎)、豊島屋油店の段(文字弥七)。 ※鷺谷樗風演出、大塚克三装置。野沢松之輔作曲(徳庵堤茶店の段)「河内屋与兵衛内の段」。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七作曲(豊島屋油店の段)。	女房お吉(玉男)、河内屋与兵衛(栄三)、山本森右衛門(辰五郎)、豊島屋七左衛門(賛助)、父親徳兵衛(勘十郎)、徳兵衛女房お沢(玉五郎)、妹娘おかち(二暢)。

一九七三	昭和48	9/9~23	東京 国立劇場 小劇場	女殺油地獄	<p>徳庵堤の段（呂道八）、河内屋内の段（中英清治、奥咲重造）、豊島屋油店の段（文字弥七）。</p> <p>※鷺谷樗風演出、大塚克三装置。野沢松之輔作曲（「徳庵堤の段」河内屋内の段）。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七作曲（「豊島屋油店の段」）。</p> <p>※近松門左衛門二百五十年忌記念。</p> <p>※「人形は復活以来定評のあった与兵衛の栄三が病氣休演のため、これまでお吉を遣ってきた玉男が与兵衛に回り助が初役でお吉を持つのが興味深い。また皮肉な徳兵衛夫婦も玉昇、文雀の中堅コンビに変わり、世代の交代が感じられる」（筋書・鑑賞ガイド）。</p>	<p>女房お吉（簗助）、河内屋与兵衛（玉男）、山本森右衛門（作十郎）、豊島屋七左衛門（玉松）、河内屋徳兵衛（玉昇）、女房お沢（文雀、妹おかち）（一暢）。</p>
一九七三	昭和48	10/26~28	京都 京都府立文化 芸術会館	女殺油地獄	<p>徳庵堤茶店の段（伊達路吉兵衛）、河内屋与兵衛内の段（津駒叶太郎、奥咲重造）、豊島屋油店の段（文字弥七）。</p> <p>※野沢松之輔作曲（「徳庵堤茶店の段」河内屋与兵衛内の段）。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七作曲（「豊島屋油店の段」）。</p>	<p>女房お吉（簗助）、河内屋与兵衛（玉男）、豊島屋七左衛門（玉松）、父親徳兵衛（玉昇）、徳兵衛女房お沢（文雀）。</p>
一九七五	昭和50	7/13~27	朝日座	女殺油地獄	<p>徳庵堤茶店の段（咲清治）、河内屋与兵衛内の段（緑叶太郎、嶋三）、豊島屋油店の段（文字弥七）。</p> <p>※大塚克三装置。野沢松之輔作曲（「徳庵堤茶店の段」河内屋与兵衛内の段）。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七作曲（「豊島屋油店の段」）。</p>	<p>女房お吉（玉男）、河内屋与兵衛（簗助）、山本森右衛門（作十郎）、豊島屋七左衛門（小玉）、父親徳兵衛（玉昇）、徳兵衛女房お沢（文昇）、妹娘おかち（一暢）。</p>

「女殺油地獄」(上演年表)

西曆	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九七五	昭和50	12/1~2	名古屋 中日劇場	女殺油地獄	<p>徳庵堤茶店の段(伊達路道八、河内屋与兵衛内の段(相生)叶太郎、十九燕三、豊島屋油店の段(織)弥七)。</p> <p>※大塚克三装置。野沢松之輔作曲(徳庵堤茶店の段)、「河内屋与兵衛内の段」。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七作曲(豊島屋油店の段)。</p>	<p>女房お吉(玉男)、河内屋与兵衛(簀助)、山本森右衛門(作十郎)、豊島屋七左衛門(文昇)、父徳兵衛(玉昇)、女房お沢(文雀)、娘おかち(二暢)。</p>
一九七八	昭和53	7/7~23	朝日座	女殺油地獄	<p>徳庵堤茶店の段(相生)叶太郎、河内屋与兵衛内の段(緑)清介、咲(団六)、豊島屋油店の段(織)燕三)。</p> <p>※大塚克三装置。野沢松之輔作曲(徳庵堤茶店の段)、「河内屋与兵衛内の段」。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七作曲(豊島屋油店の段)。</p>	<p>女房お吉(玉男)、河内屋与兵衛(玉昇)、山本森右衛門(玉松)、豊島屋七左衛門(小玉)、父親徳兵衛(作十郎)、徳兵衛女房お沢(文昇)、妹娘おかち(一暢)。</p>
一九八二	昭和57	2/13~28	東京 国立劇場 小劇場	女殺油地獄	<p>徳庵堤の段(与兵衛)呂・お吉・小松・七左衛門(緑)小栗八弥(津駒)・小菊(貴)・森右衛門(津国)・大尽蠟九(南司)・弥五郎(文字栄)・勝司、河内屋内の段(中英)・錦弥、奥伊達路(叶太郎)、豊島屋油店の段(切文字)・勝平)、同連夜の段(咲)清介)。</p> <p>※野沢松之輔作曲(徳庵堤の段)、「河内屋内の段」。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七作曲(豊島屋油店の段)。</p> <p>五代鶴沢燕三作曲(同連夜の段)。</p> <p>※近松名作集。</p>	<p>女房お吉(玉男)、河内屋与兵衛(簀助)、山本森右衛門(亀松)、豊島屋七左衛門(文昇)、河内屋徳兵衛(作十郎)、徳兵衛女房お沢(文雀)、妹娘おかち(二暢)。</p>

一九八四	昭和59	2/18~3/4	東京 国立劇場 小劇場	女殺油地獄	徳庵堤の段(与兵衛・相生・お吉・英・七左衛門・緑・小栗八弥・貴・小菊・三輪・森右衛門・津国・大尽蠟九・南司・弥五郎・文字久・錦弥、河内屋内の段(中千歳・団治・奥・呂・団六)、豊島屋油店の段(切文字・勝平)、同連夜の段(鳴・清介)。 ※野沢松之輔 作曲(「徳庵堤の段」河内屋内の段)。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七 作曲(「豊島屋油店の段」)。 五代鶴沢燕三 作曲(「同連夜の段」)。 ※竹本座開場300年記念・近松名作集。	女房お吉(文雀)、河内屋与兵衛(玉男)、山本森右衛門(玉松)、豊島屋七左衛門(文吾)、河内屋徳兵衛(作十郎)、徳兵衛女房お沢(文昇、妹おかち(紋寿)。
一九八六	昭和61	10/25	三重 名張市青少年 センター	女殺油地獄	徳庵堤茶店の段(与兵衛・津駒・他 清二郎)、河内屋与兵衛内の段(十九 錦糸)、豊島屋油店の段(住 富助)。 ※『国立文楽劇場十年史』に拠る。	女房お吉(文雀)、河内屋与兵衛(玉男)、山本森右衛門(玉幸)、豊島屋七左衛門(玉松)、河内屋徳兵衛(作十郎)、徳兵衛女房お沢(紋寿)、妹おかち(勘寿)。
一九八六	昭和61	10/26~31	地方公演 (近畿・九州 ・中国)	女殺油地獄	徳庵堤茶店の段(与兵衛・津駒・七左衛門+森右衛門+大尽蠟九・津国・お吉+小菊+千歳・小栗八弥+弥五郎+文字久 清二郎)、河内屋与兵衛内の段(十九 清友、豊島屋油店の段(住 富助)。 ※野沢松之輔 作曲(「徳庵堤茶店の段」河内屋与兵衛内の段)。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七 作曲(「豊島屋油店の段」)。 ※文化庁主催移動芸術祭。	女房お吉(文雀)、河内屋与兵衛(玉男)、山本森右衛門(玉幸)、豊島屋七左衛門(玉松)、河内屋徳兵衛(作十郎)、徳兵衛女房お沢(紋寿)、妹おかち(勘寿)。

「女殺油地獄」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九八六	昭和61	11/7~26	地方公演 (関東・信越 ・東北・近畿)	女殺油地獄	徳庵堤茶店の段(千歳II清二郎)、河内屋与兵衛内の段(咲II勝平)、豊島屋油店の段(織II清介)。 ※野沢松之輔II作曲(「徳庵堤茶店の段」)。「河内屋与兵衛内の段」。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七II作曲(「豊島屋油店の段」)。 ※公演中26日は「大阪府民劇場」(藤井寺市立市民総合会館)。	女房お吉(玉男)、河内屋与兵衛(簀助)、山本森右衛門(文彦)、豊島屋七左衛門(玉松)、河内屋徳兵衛(玉幸)、徳兵衛女房お沢(文雀)、妹おかち(寶太郎)。
一九八七	昭和62	3/6~22	地方公演 (近畿・東海 ・中国・九州 ・関東)	女殺油地獄	徳庵堤茶店の段(英II団治)、河内屋与兵衛内の段(伊達路II清友)、豊島屋油店の段(切住II富助)。 ※野沢松之輔II作曲(「徳庵堤茶店の段」)。「河内屋与兵衛内の段」。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七II作曲(「豊島屋油店の段」)。	女房お吉(玉男)、河内屋与兵衛(簀助)、山本森右衛門(紋寿)、豊島屋七左衛門(文昇)、河内屋徳兵衛(作十郎)、徳兵衛女房お沢(文雀)、妹おかち(紋寿)。
一九八九	平成1	11/3~20	国立文楽劇場	女殺油地獄	徳庵堤の段(小松II清友)、河内屋内の段(中津梅II八介、奥 咲II団七)、豊島屋油店の段(織II清治)、同速夜の段(相生II錦弥)。 ※野沢松之輔II作曲(「徳庵堤の段」)。「河内屋内の段」。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七II作曲(「豊島屋油店の段」)。 五代鶴沢燕三II作曲(「同速夜の段」)。 ※近松名作集。 ※豊竹小松太夫3~12日休演のため、「徳庵堤の段」を豊竹英太夫が代演。	女房お吉(文雀)、河内屋与兵衛(簀助)、山本森右衛門(作十郎)、豊島屋七左衛門(玉幸)、河内屋徳兵衛(玉男)、徳兵衛女房お沢(紋寿)、妹おかち(寶太郎)。

「女殺油地獄」(上演年表)

一九九〇	平成2	9/27	東京 早稲田大学大 隈講堂	女殺油地獄	豊島屋の段(咲 清介)。 ※八代目竹本綱大夫・十代目竹沢弥七 作曲。 ※素浄瑠璃。 ※早稲田大学文学部100周年記念。	女房お吉(紋寿)、河内屋与兵衛(簀助)、山本森右衛門(玉也)、豊島屋七左衛門(玉輝)、河内屋徳兵衛(玉女)、徳兵衛女房お沢(簀太郎)、妹おかち(清之助)。
一九九一	平成3	5/30~6/2	東京 ラフォーレミ ュージアム原 宿	女殺油地獄	徳庵堤の段(緑・津梅・文字久・南都 団治)、河内屋内の段(相生 燕二郎)、豊島屋油店の段(咲 清介)。 ※野沢松之輔 作曲(「徳庵堤の段」河内屋内の段)。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七 作曲(「豊島屋油店の段」)。 ※第5回「原宿文楽」。	女房お吉(紋寿)、河内屋与兵衛(簀助)、山本森右衛門(玉也)、豊島屋七左衛門(玉輝)、河内屋徳兵衛(玉女)、徳兵衛女房お沢(簀太郎)、妹おかち(清之助)。
一九九一	平成3	7/24~25	近鉄アート館	女殺油地獄	徳庵堤の段(緑・津梅・文字久・南都 団治)、河内屋内の段(相生 燕二郎)、豊島屋油店の段(咲 清介)。 ※野沢松之輔 作曲(「徳庵堤の段」河内屋内の段)。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七 作曲(「豊島屋油店の段」)。 ※第5回「原宿文楽」。	女房お吉(紋寿)、河内屋与兵衛(簀助)、山本森右衛門(玉也)、豊島屋七左衛門(玉輝)、河内屋徳兵衛(玉女)、徳兵衛女房お沢(簀太郎)、妹おかち(清之助)。
一九九二	平成4	8/1~17	国立文楽劇場	女殺油地獄	徳庵堤の段(与兵衛 小松 お吉 津駒・花車 七左衛門 千歳・茶屋の亭主 小栗八弥 津国 小菊 南都 森右衛門 文字久 大尽蠟九 呂勢 弥五郎 文字栄 姉娘お清 始 清介)、河内屋内の段(中松香 弥三郎、奥咲 団七)、豊島屋油店の段(織 富助)。 ※野沢松之輔 作曲(「徳庵堤の段」河内屋内の段)。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七 作曲(「豊島屋油店の段」)。	女房お吉(簀助)、河内屋与兵衛(玉男)、山本森右衛門(文吾)、豊島屋七左衛門(文昇)、河内屋徳兵衛(作十郎)、徳兵衛女房お沢(文雀)、妹おかち(一暢 紋寿)。

「女殺油地獄」(上演年表)

西曆	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九九七	平成9	2/8~23	東京 国立劇場 小劇場	女殺油地獄	<p>徳庵堤の段(与兵衛―小松・お吉―英・七左衛門+花車―貴・小栗八弥+茶店亭主―津国・小菊―南都・森右衛門―文字久・大尽蠟九―呂勢・弥五郎―文字栄・お清―新―清友、河内屋内の段(中松香―八介、奥・咲―清治)、豊島屋油店の段(切住―錦弥)、同連夜の段(伊達―団七)。</p> <p>※野沢松之輔作曲(「徳庵堤の段」河内屋内の段)。八世竹本綱大夫・十代竹沢弥七作曲(「豊島屋油店の段」)。</p> <p>五代鶴沢燕三作曲(「同連夜の段」)。</p> <p>※近松名作集。</p>	<p>女房お吉(玉男)、河内屋与兵衛(簀助)、山本森右衛門(玉幸)、豊島屋七左衛門(玉松)、河内屋徳兵衛(作十郎)、徳兵衛女房お沢(文昇)、妹おかち(和生)。</p>
二〇〇〇	平成12	7/2~3	京都 南座	女殺油地獄	<p>徳庵堤茶店の段(お吉―貴・与兵衛―文字久・小菊―南都・森右衛門―文字栄・弥五郎―始・大尽蠟九―新・小栗八弥―咲甫・花車―睦・茶店亭主―相子・お清―つばさ/呂茂・七左衛門―津国―喜左衛門)、河内屋与兵衛内の段(中三輪―喜一朗、奥・伊達―団六)、豊島屋油店の段(咲―清介)。</p> <p>※野沢松之輔作曲(「徳庵堤茶店の段」河内屋与兵衛内の段)。八世竹本綱大夫・十代竹沢弥七作曲(「豊島屋油店の段」)。</p>	<p>女房お吉(和生)、河内屋与兵衛(簀太郎)、山本森右衛門(玉也)、豊島屋七左衛門(玉輝)、河内屋徳兵衛(文吾)、徳兵衛女房お沢(二暢)、妹おかち(簀二郎)。</p>

「女殺油地獄」(上演年表)

二〇〇三	平成15	7/19~8/10	国立文楽劇場	女殺油地獄	<p>徳庵堤の段(お吉・津駒・与兵衛・文字久・花車・七左衛門・南都・森右衛門・文字栄・大尽蠟九・新・茶屋の亭主・小栗八弥・始・小菊・咲甫・弥五郎・相子・姉娘お清・つばさ・喜左衛門)、河内屋内の段(中津国・弥三郎、奥・咲・寛治)、豊島屋油店の段(切住・錦糸)。</p> <p>※野沢松之輔の作曲(「徳庵堤の段」(河内屋内の段)。八世竹本綱大夫・十代竹沢弥七の作曲(「豊島屋油店の段」)。</p> <p>※竹本文字久太夫休演のため、「徳庵堤の段」与兵衛を豊竹呂勢太夫が代演。桐竹一暢休演のため、豊島屋七左衛門を桐竹紋豊が代演。吉田玉幸休演のため、河内屋徳兵衛を吉田玉女が代演。</p>	女房お吉(文雀)、河内屋与兵衛(簀助)、山本森右衛門(玉志)、豊島屋七左衛門(一暢)、河内屋徳兵衛(玉幸)、徳兵衛女房お沢(紋寿)、妹おかち(和生)。
二〇〇五	平成17	9/10~25	東京国立劇場 小劇場	女殺油地獄	<p>徳庵堤の段(お吉・津駒・与兵衛・三輪・七左衛門・花車・文字栄・森右衛門・新・小栗八弥・茶屋亭主・始・大尽蠟九・咲甫・小菊・希・弥五郎・呂茂・お清・靖・寛治)、河内屋内の段(中・咲甫・団吾・奥・千歳・清治)、豊島屋油店の段(咲・燕二)、豊島屋連夜の段(英・清友)。</p> <p>※野沢松之輔の作曲(「徳庵堤の段」(河内屋内の段)。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七の作曲(「豊島屋油店の段」)。</p> <p>五代鶴沢燕三の作曲(「豊島屋連夜の段」)。</p>	女房お吉(簀助)、河内屋与兵衛(勘十郎)、山本森右衛門(玉輝)、豊島屋七左衛門(紋豊)、河内屋徳兵衛(玉也)、徳兵衛女房お沢(玉英)、妹おかち(清之助)。

「女殺油地獄」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇〇九	平成21	2/6~22	東京 国立劇場 小劇場	女殺油地獄	徳庵堤の段(与兵衛一三輪・お吉一南都・七左衛門+茶屋亭主一文字栄・森右衛門一津国・大尽蠟九一始・小栗八弥+花車一睦・小菊一呂茂・弥五郎一靖・お清一咲寿一喜一朗)、河内屋内の段(中相子一団吾、奥 呂勢一清治)、豊島屋油店の段(咲一燕三)。 ※野沢松之輔の作曲(「徳庵堤の段」河内屋内の段)。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七の作曲(「豊島屋油店の段」)。	女房お吉(紋寿)、河内屋与兵衛(勘十郎)、山本森右衛門(玉志)、豊島屋七左衛門(紋豊)、河内屋徳兵衛(玉也)、徳兵衛女房お沢(玉英)、妹おかち(清十郎)。
二〇一〇	平成22	10/8	朝日生命ホール	女殺油地獄	豊嶋屋の段(咲一燕三)。 ※豊竹咲大夫の会。	
二〇一一	平成23	4/2~24	国立文楽劇場	女殺油地獄	徳庵堤の段(与兵衛一三輪・お吉一南都・森右衛門一津国・七左衛門一相子・茶屋亭主+弥五郎一文字栄・大尽蠟九一靖・小菊+花車一希・小栗八弥+お清一咲寿一団吾)、河内屋内の段(中睦一龍爾、奥 英一清介)、豊島屋油店の段(切 咲一燕三)。 ※野沢松之輔の作曲(「徳庵堤の段」河内屋内の段)。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七の作曲(「豊島屋油店の段」)。 ※竹本津国大夫休演のため、「徳庵堤の段」森右衛門を豊竹靖大夫が代演。	女房お吉(和生)、河内屋与兵衛(勘十郎)、山本森右衛門(文司)、豊島屋七左衛門(勘寿)、河内屋徳兵衛(玉女)、徳兵衛女房お沢(紋寿)、妹おかち(簀二郎/勘弥)。
二〇一三	平成25	12/21~22	福岡 博多 座	女殺油地獄	徳庵堤の段(咲甫一宗助)、河内屋内の段(中睦一龍爾、奥 津駒一寛治)、豊島屋油店の段(切 咲一燕三)。 ※野沢松之輔の作曲(「徳庵堤の段」河内屋内の段)。八世竹本綱大夫・十代竹沢弥七の作曲(「豊島屋油店の段」)。 ※近松生誕300年・公益財団法人文楽協会創立50周年記念・竹本義太夫300年忌。	女房お吉(和生)、河内屋与兵衛(勘十郎)、山本森右衛門(幸助)、豊島屋七左衛門(玉也)、河内屋徳兵衛(玉女)、徳兵衛女房お沢(勘弥)、妹おかち(簀二郎)。

「女殺油地獄」(上演年表)

二〇一四	平成26	5/10~26	東京 国立劇場 小劇場	女殺油地獄	徳庵堤の段(与兵衛・松香・お吉・三輪・森右衛門・津国・茶屋亭主・弥五郎・文字栄・七左衛門・南都・小菊・花車・咲寿・大尽蠟九・小住・小栗八弥・お清・亘・喜一朗)、河内屋内の段(口・芳穂・寛太郎、奥・呂勢・清治)、豊島屋油店の段(切・咲・燕三)。 ※野沢松之輔作曲(「徳庵堤の段」河内屋内の段)。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七作曲(「豊島屋油店の段」)。 ※国立文楽劇場開場30周年記念。	女房お吉(和生)、河内屋与兵衛(勘十郎)、山本森右衛門(幸助)、豊島屋七左衛門(勘弥)、河内屋徳兵衛(玉也)、徳兵衛女房お沢(勘寿)、妹おかち(一輔)。
二〇一四	平成26	7/19~8/4	国立文楽劇場	女殺油地獄	徳庵堤の段(咲甫・富助)、河内屋内の段(口・芳穂・寛太郎、奥・呂勢・清治)、豊島屋油店の段(切・咲・燕三)、豊島屋速夜の段(文字久・清友)。 ※野沢松之輔作曲(「徳庵堤の段」河内屋内の段)。八代竹本綱大夫・十代竹沢弥七作曲(「豊島屋油店の段」)。 五代鶴沢燕三作曲(「豊島屋速夜の段」)。 ※近松門左衛門没後200年・国立文楽劇場開場30周年記念。 ※鶴沢燕三休演のため、「豊島屋油店の段・切」を鶴沢清志郎が代演。	女房お吉(和生)、河内屋与兵衛(勘十郎)、山本森右衛門(幸助)、豊島屋七左衛門(清十郎)、河内屋徳兵衛(玉也)、徳兵衛女房お沢(勘寿)、妹おかち(一輔)。
二〇一七	平成29	8/11~13	東京 世田谷パブリックシアター	女殺油地獄	序曲(清治・清志郎・清旭)、下之巻 豊島屋(前千歳・藤蔵、奥・与兵衛・呂勢・女房お吉・靖・清治・清志郎)。 ※杉本文楽。杉本博司・構成・演出・美術。鶴沢清治作曲・演出。山村友五郎・振付。	女房お吉(一輔)、河内屋与兵衛(幸助)。

平成30年2月以降の国立文楽劇場・国立劇場での公演記録

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇一八	平成30	2/10~26	東京国立劇場 小劇場	女殺油地獄	徳庵堤の段（与兵衛一靖、お吉・小菊一希、七左衛門・森右衛門・大尽蟬丸一碩、八弥五郎一亘、お清・花車一團、糸、清河内屋の段（お清・花車一團、津駒、豊島屋速夜の段（呂勢一宗助、豊島屋速夜の段（呂勢一宗助）	女房お吉（和生）、お玉（勘五）、お清（河内）、お玉（清）、お玉（五）、お玉（善）、お玉（衛）、お玉（寺）、お玉（王）、お玉（善）、お玉（勘）、お玉（十）、お玉（和）、お玉（馬）、お玉（刷）、お玉（毛）、お玉（天）、お玉（王）、お玉（寺）、お玉（王）、お玉（山）、お玉（大）、お玉（右）、お玉（勘）、お玉（次）、お玉（房）、お玉（主）、お玉（吉）、お玉（和）、お玉（生）、お玉（路）、お玉（姉）、お玉（娘）、お玉（清）、お玉（之）、お玉（内）、お玉（屋）、お玉（之）、お玉（善）、お玉（衛）、お玉（茶）、お玉（屋）、お玉（衛）、お玉（五）、お玉（郎）、お玉（娘）、お玉（秀）、お玉（綿）、お玉（捕）、お玉（手）、お玉（頭）、お玉（勘）、お玉（介）、お玉（和）、お玉（馬）、お玉（紙）、お玉（屋）、お玉（娘）
二〇一八	平成30	11/3~25	国立文楽劇場	女殺油地獄	徳庵堤の段（三輪一清友、河内屋内の段（屋口亘一清丈、奥文字久一團七）、豊島屋油店の段（呂一清介）	女房お吉（和生）、お玉（勘五）、お清（河内）、お玉（清）、お玉（五）、お玉（善）、お玉（衛）、お玉（寺）、お玉（王）、お玉（善）、お玉（勘）、お玉（十）、お玉（和）、お玉（馬）、お玉（刷）、お玉（毛）、お玉（天）、お玉（王）、お玉（寺）、お玉（王）、お玉（山）、お玉（大）、お玉（右）、お玉（勘）、お玉（次）、お玉（房）、お玉（主）、お玉（吉）、お玉（和）、お玉（生）、お玉（路）、お玉（姉）、お玉（娘）、お玉（清）、お玉（之）、お玉（内）、お玉（屋）、お玉（之）、お玉（善）、お玉（衛）、お玉（茶）、お玉（屋）、お玉（衛）、お玉（五）、お玉（郎）、お玉（娘）、お玉（秀）、お玉（綿）、お玉（捕）、お玉（手）、お玉（頭）、お玉（勘）、お玉（介）、お玉（和）、お玉（馬）、お玉（紙）、お玉（屋）、お玉（娘）
二〇二一	令和3	8/21	国立文楽劇場	女殺油地獄	徳庵堤の段（三輪一清友、河内屋内の段（屋口亘一清丈、奥文字久一團七）、豊島屋油店の段（呂一清介）	女房お吉（和生）、お玉（勘五）、お清（河内）、お玉（清）、お玉（五）、お玉（善）、お玉（衛）、お玉（寺）、お玉（王）、お玉（善）、お玉（勘）、お玉（十）、お玉（和）、お玉（馬）、お玉（刷）、お玉（毛）、お玉（天）、お玉（王）、お玉（寺）、お玉（王）、お玉（山）、お玉（大）、お玉（右）、お玉（勘）、お玉（次）、お玉（房）、お玉（主）、お玉（吉）、お玉（和）、お玉（生）、お玉（路）、お玉（姉）、お玉（娘）、お玉（清）、お玉（之）、お玉（内）、お玉（屋）、お玉（之）、お玉（善）、お玉（衛）、お玉（茶）、お玉（屋）、お玉（衛）、お玉（五）、お玉（郎）、お玉（娘）、お玉（秀）、お玉（綿）、お玉（捕）、お玉（手）、お玉（頭）、お玉（勘）、お玉（介）、お玉（和）、お玉（馬）、お玉（紙）、お玉（屋）、お玉（娘）